

# 西百塚山19号墳の発掘調査

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター  
平成30年5月26日(土)10:00～

## 1. 西百塚山古墳群について

松江市大草町～八雲町に所在し、島根県最大級の「大草丘陵古墳群」の一角を構成する古墳群です。1960年に当時の松江高校によって、七曲古墳が<sup>ななまがり</sup>発掘されていますが、大半の古墳は未調査です。近年は、松江北高校や当センターなどが継続的に測量調査・分布調査を行っています。

西百塚山19号墳は、松江北高校が2015～2016年に行った測量調査によって、直径約49mの円墳と分かりました。西百塚山古墳群では最大、出雲の円墳の中でも最大級です。今回、19号墳について古墳の築造時期や墳丘構造などを解明するために発掘調査を実施しました。

## 2. 今回の調査成果

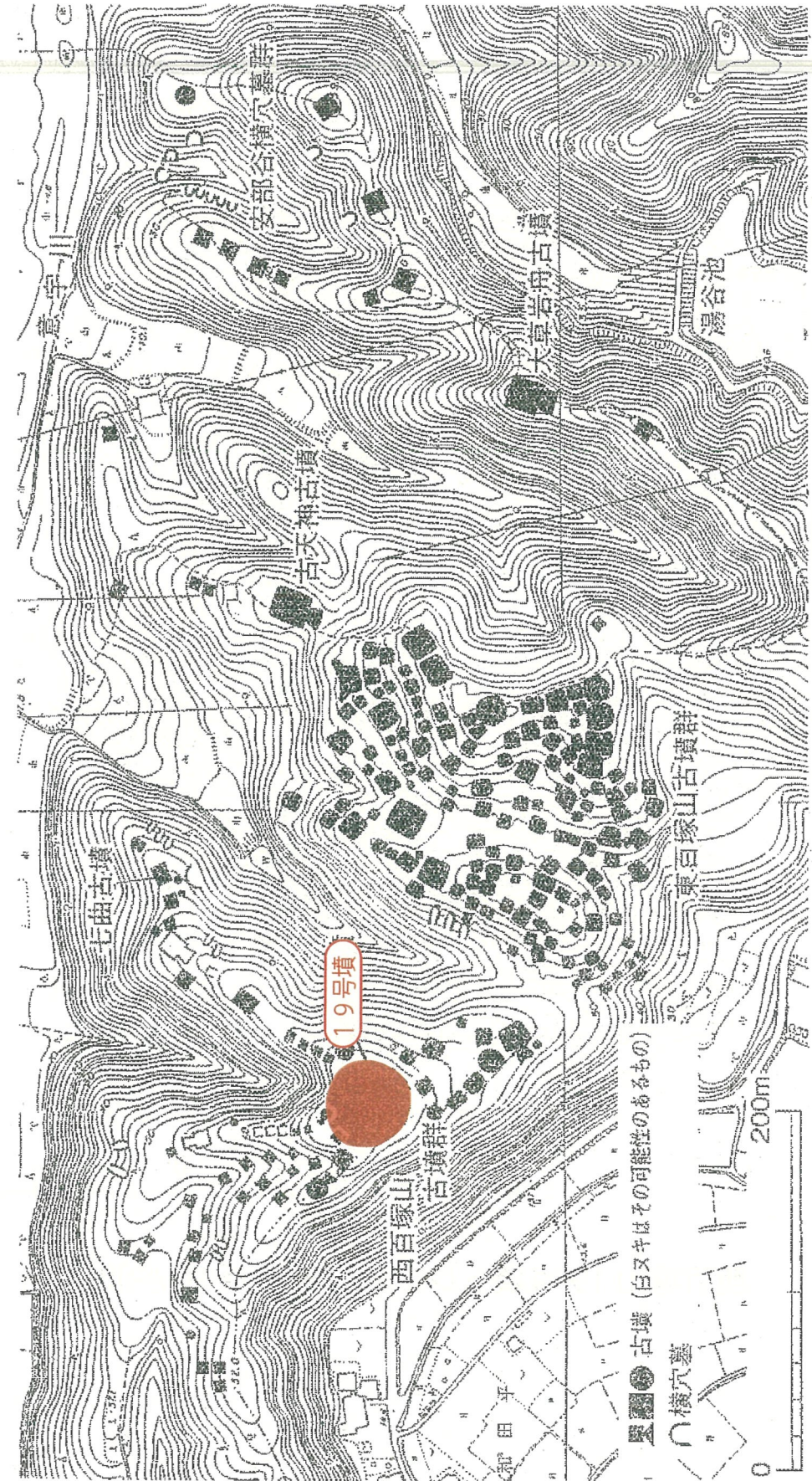
(1) 19号墳からは、埴輪片が約60点出土しました。円筒埴輪や朝顔形埴輪のほか、<sup>きぬがさがた</sup>形象埴輪である蓋形埴輪と思われる破片も出土しました。出土状況から本来、埴輪は墳頂部に立て並べられていた可能性が高いです。また、19号墳は、出土した埴輪から古墳時代中期前葉～中葉(5世紀前葉～中葉)頃に築造されたと考えられます。

(2) 古墳の築造方法として、地山を削り出し、墳丘を成形していることが分かりました。また、土層の観察から、削られた地山の土は墳頂部分に盛土として利用されていることが分かり、古墳の外表を<sup>ふきいし</sup>飾る葺石は、確認されず、19号墳は、葺石を持たない可能性が高くなるなど、19号墳の墳丘構造の実態を明らかにすることができました。

## 3. まとめ

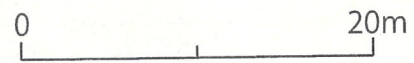
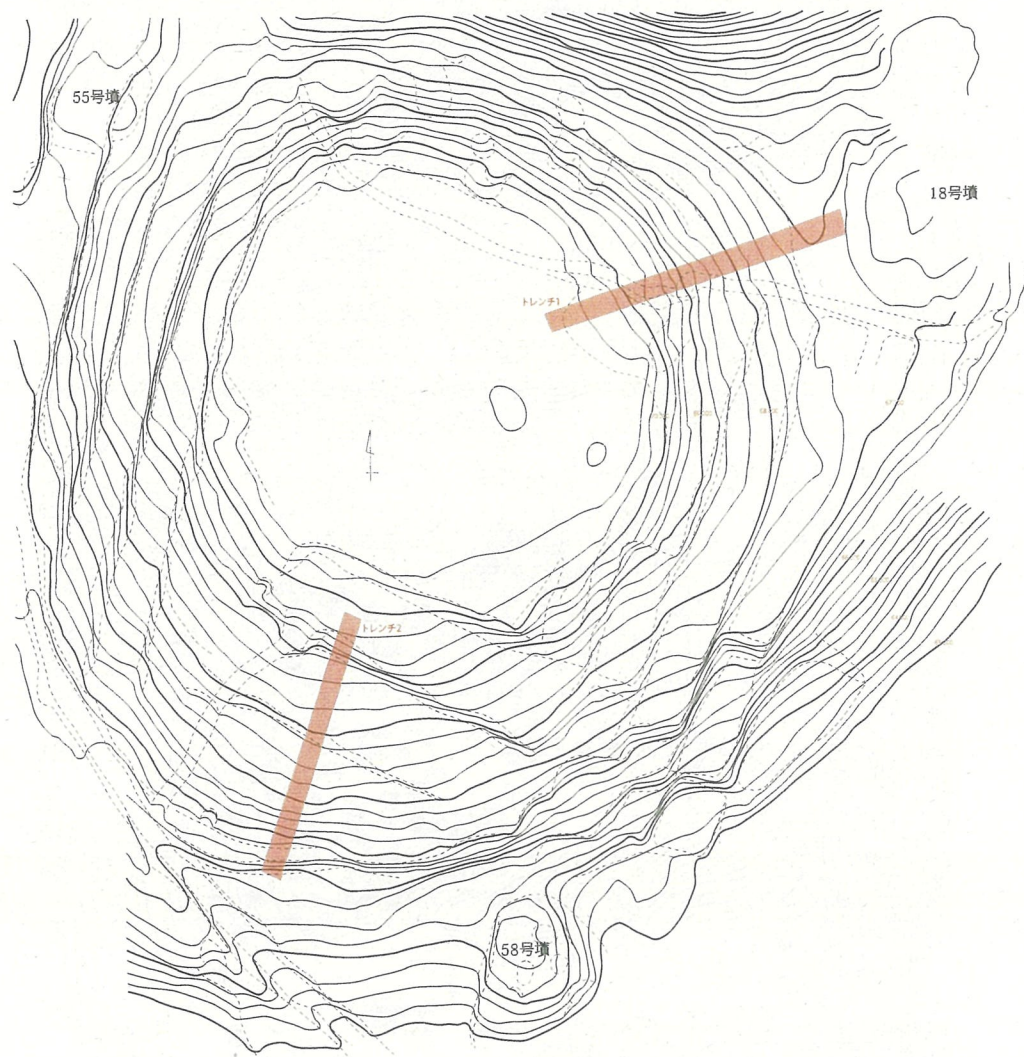
今回の発掘調査で、西百塚山19号墳は、葺石を持たず、埴輪を墳頂部に樹立していた可能性が高いことが分かりました。西百塚山古墳群の中でも最も高所に位置し、古墳群の始祖的な古墳の様相が判明した意義は大変大きいものです。また、古墳群の形成過程や古墳時代の出雲における古墳の様相を知るうえで重要な資料になりました。

調査にあたり、地元や土地所有者の方々をはじめ、島根県立松江北高校歴史愛好会の御協力をいただきました。



西百塚山古墳群19号墳位置図





西百塚山 19号墳トレンチ配置図 (S=1/400)

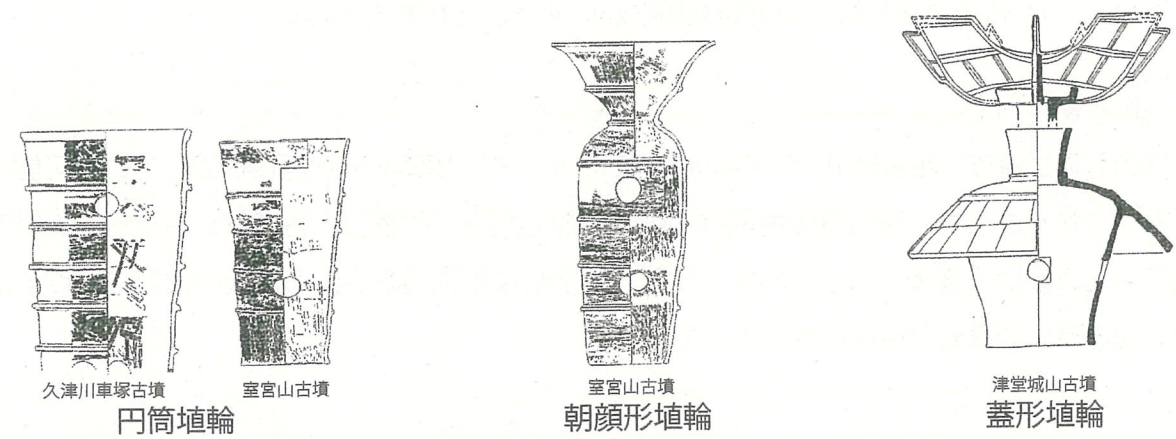
編年		意宇郡中央部				
年代	大賀 2002	畿内	指標古墳	大橋川南岸 (山代郷)	大庭・山代・有 (山代郷・大草郷)	大草丘陵
240	前I期	布留0	菅原	社日1号		小堀谷3号
	前II期	布留1	西森塚	観音寺1号		
	前III期		桜井茶臼山			
300	前IV期		メスリ山	上竹矢7号		
	前V期	布留2		64		東百塚山
400	前VI期		佐紀陵山 成谷向山	58		
	前VII期	布留3	津堂城山	社日2号	伊出山2号	
450	中I期	布留4古 TC232他	仲津山 上石津			
	中II期	TK216	養田御塚山	井ノ原1号 32	龍神塚 35	
480	中III期	ON46	大仙陵	石屋 42		
	中IV期	TK208	土師ニサンザイ 市野山			
500	後I期	TK23	西ミサンザイ	井ノ原4号 57	中竹矢1号 20	
		TK47		観音寺2号 15	竹矢岩舟 15	

西百塚山 19号墳

- ④………葺石をもつもの
- ………少量の埴輪をもつもの
- ………大量の埴輪を並べるもの

意宇平野の古墳編年表(池淵2015を改変)  
西百塚山 19号墳の位置付け

松江北高校歴史愛好会 2017「西百塚山 19号墳—意宇平野に生きた豪族の証—」『季刊文化財』139号に加筆



(参考) 出土埴輪の例

円筒埴輪・朝顔形埴輪：廣瀬寛 2011「西日本の円筒埴輪」『古墳時代の考古学』1 古墳時代史の枠組み 同成社より  
蓋形埴輪：和田一之輔 2011「形象埴輪の編年と画期」『古墳時代の考古学』1 古墳時代史の枠組み 同成社より